



Vol.1

下野長久さん（日の出町）

第一回目のインタビューは東京都西多摩郡日の出町在住の下野長久（しものたけひさ）さんです。

現在日の出町で山仕事に力を入れている方の一人です。

山仕事に関する質問・疑問などを聞いてみました。

Q 山仕事に従事されたのはいつ頃からですか？

A 昭和 15 年頃から従事した、そのころは戦時中だったので労力がなかったが材の価格は安定していた。

Q 山の作業で特に重視されていることは？

A 機械を使用する時は特に気を付けています。あと今までの経験から直材を造るには 10 年間が一つの勝負、新植から 3 年ぐらいは 3 回刈りする、雪起しも降らなくても毎年やる、特にヒノキの場合ね、10 年前位からモウソウ竹を割って支柱にし、わら縄で縛るようにした、どうもこのやり方が良いみたいだ。

Q 山の作業以外になさっている仕事は？

A 昭和 30 年頃はまだ山の景気は良かったが、伐採するまで時間がかかると言うこともあるし、山間地帯を考慮して、昭和 34 年景気は良かったが毎年定期的に収入のあるように考え梅を植えることにし、現在に至っている。



梅畑の様子。その一部。

森林組合合併により施業計画等を推進していただいて実際に間伐も始まり間伐林道という名目で作った林道が生きてきている、組織的にいろいろアピール等も具体的にしてもらっているので一組合員として森林組合の役員の皆様をはじめ、職員の皆様に感謝と御礼を申し上げます。今後とも一層の努力をお願いしたいと思います。

私は小規模面積の所有者ですけど、10～20 年前から山は自然の物だけ管理を捨てれば山が荒れる、という反対の問題が起きると主張してきたのですが理解して頂けなかった、最近になって政治家や一般の方々が管理しなきゃいかんと理解を示してもらえるようになってきた、しかし理解されるだけじゃだめなんですよ、具体的に山仕事で安定した生活ができるような保障的な問題を優遇されないと森林組合だけでがんばっていても効果が薄い、

でも森林組合が主体となって、山主みずから率先して管理ができるような具体的な政策をして頂きたいと思います。

昔から山は三代とおじいさんからの言い伝えで、100年以上経たないと立派な木ができない、それだけ手入れをしなければならぬので良い木を造ると言うことは難しい。

最近の建築様式も変わってきて日本材の使用が減ってきているし、材木屋に聴いても最低60年の木でないと良い物ができないと言っているのが現実で、それに見合った60~80年以上の木を造って行くという事は、自分の山の木が孫の代にならないと一般の皆様に使っていただける時代が来ないと思います。

山を持っている人は昔から辛抱、忍耐が強い訳ですが、もっと具体的に認識された林業、森林の必要性を考えて頂くと同時にこれから水源税などとも言われていますが、ぜひ一般の皆様から理解して頂いて、30代40代の方が大勢山仕事に従事して生活ができる社会が早く来てもらいたいと思っています。

私もいろいろな役職をやらせて頂きましたけど、なかなか良いようにするのは難しい事と知っていますが、奥多摩ではシカの害があって山が崩壊するという事もありますし、早く山がよみがえるように願いたいのと、林業団体は農業団体に比べてやっぱ弱い、強い団体へは援助があるが弱い方にも援助いただいて農業団体みたいに強くなるよう希望したいね。

下野さん、インタビューに快く受けて頂きましてありがとうございました。これからも健康には留意されまして、山仕事へのご尽力をお願い申し上げます。